

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 52 (年4回発行)

■発行日 平成21年3月31日
■発行 三春まちづくり協会
■編集 三春まちづくり協会広報部会
三春町字大町178 (旧公民館内)
TEL/FAX (62) 3988

“町民一人ひとりの声を

議会へ結集する協働のまちづくり!”

—地区内居住町会議員との懇談会⑤から—

二月四日、交流館まほら二階学習室で、三春まちづくり協会主催の「地区内在住町会議員との懇談会」が開催されました。懇談会には五名の町会議員(万年議員、渡辺議員、佐藤議員、日下部議員、特別参加の小林議員)と、協会員及び一般町民など三名が参加しました。長澤副協会長の司会で、三春町の行政課題やこれからのまちづくりについて議会活動を中心に活発な意見交換が行われました。
なお、紙面の関係上、発言内容を要約して掲載しますので、あらかじめお断りいたします。

今回は、特にテーマを定めずに「三春のまちづくり」に向けた行政の課題や議会活動にあたっての考え方について述べてもらいました。

- ◇三春町の一番の課題は人口減少の問題と考える。
 - ・中核郡山市に隣接する好条件にもかかわらず、毎年一％程度減少。
 - ・公共料金が高い。医療、教育、育児など福祉行政面で地域格差により若い人達(子育て世代)が住みづらい。
 - ・結果として、人口減少により税収減、交付税の減、財政苦による行政サービス縮退の悪循環に陥る。
- ◇地域行政に差。政策提言のできる議員活動が重要である。
 - ・隣接する田村市の状況を見るとまちづくり行政に地域差が出ている。

何に金を使うかは町民の総意。それを代弁し政策決定のできる議会が理想。
現状では非常に困難。町民とのつながり、行政側との関わりで体制づくりが必要。

- ◇議会を通して町民の声を政策に反映。行政執行状況を監視し、行政の適正化を図ることが大切。
 - ・町をどうするか、ビジョンづくりは、選挙で選ばれた町長の仕事。町民の皆さんの総意を受けて個別の政策を審議・決定するのが議会の役割。
 - ・町民の皆さんから、いろいろな立場で多くの考えや意見を出していただく。議会へ反映。財政面など様々な事情を考慮して全町的な視点で審議。
- ◇公約に掲げた「みんなが



◇地域の持つ資源を有効に活かし、特色あるまちづくりの推進を考える。
・三春町には、人材や自

然風土・歴史文化など価値ある資源が豊富にある。
地域で進める「地球温暖化対策計画」の具体化を、各家庭から町民運動レベルまで関心を高めることも、他に先駆けた特色ある政策の一つではないか。

この後、参加者から議会活動や町政全般について質問・意見が出され、それぞれ議員との懇談が行われた。

《議会活動等について》

- ◇【参加者からの質問】
議員による政策提言や立案は、現実的に困難ということだがどのような実情からか。
地方自治体はどこでも同じような問題を抱えているのか。
地方分権時代の行政のあり方、議会のあり方をどう考えるべきか。
議会は監視機関ということであるが、政策提言や立案は出来ないということか。
提出された政策案を否決したり、修正案をださせたりする議会の審議過程は、一種の政策立案と考えられないか。
議会の動きが町民へ伝わってこない。町民の代議機関としてもっと密接な関係づくりの仕組みが必要では。
議員は、町政に対する

強固な信念と、エキスパートとしての専門的な見識を持って町民を先導してほしい。
議員職責の議案監視、チェック、審議を混同しているように感じるが。
全員協議会の開催状況や、決定権など法的権能どうなっているのか。
議員も町民のひとりという自覚で町政に当たって欲しい。

【各議員からの意見】

- ◆ 政策立案には、資料収集・調査分析・成案等多くの付帯作業があり、議員レベルは勿論、現状の議会体制では容易ではない。行政機関への協力要請にも限度がある。
◆ 議員も町長も町民の代表である。両者の良さを発揮し発展させることがまちづくりの基本。議員としての機能の充実が必要と感ずる。
◆ 議会の提案・執行は行政、審議決定・監視は議会の役割である。どのような形にするかは別にしても、議会からの提案も必要な時期。
◆ 監視機関といっても、政策執行経緯についての説明資料が充分とはいえないのが現状。
◆ 議会の縦割り組織では、議会事務局の職員を活用しても政策提言や立案まではなかなか困難。
◆ 町がだんだん小さくなり、町の職員数も議員数も少なくなる現状では、

IT機能を活用し対応するのも一つの方策。
◆ 全員協議会の機能を活かし、議会の考えを政策立案へ反映させることも実効性があると考える。
◆ 提案される議案はほぼ固まっているので、立案過程で町民の意見が適切に反映できる段階での調整機能を全員協議会で果たせるので、法的な整備を考える必要がある。

《行政諸施策について》

- ◇ 町立三春病院や敬老園整備政策実現に対する議会の働きには感謝する。過日の積雪時の実態を見ると、三春病院までの除雪による通院路の安全確保には一考を要する。議員が率先して問題解決を働きかけて欲しい。
◇ 町営住宅には、築三十年以上で老朽化しているものもある。安全性や生活の利便性を考え対策を検討して欲しい。
最後に、各議員から「定額給付金」に対する考えを述べてもらい懇談会を終えました。
なお、個別の課題等については今後も継続的に定例出前懇談会(毎月第二水曜日午後七時～まほら二階学習室で開催)で計画しますので、テーマ・課題にご提案があれば、まちづくり協会事務局までご連絡ください。

部会だより

生涯学習部会

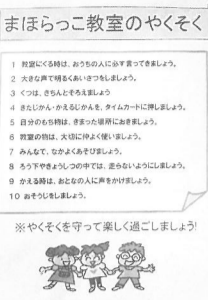
一年間を振り返って！

部会長 橋本 俊宏

最初に感じたことは数多くの人々との出会いと感動でした。今まで知らなかった世界を知る事、それが生涯学習のページではないかと思えます。自分自身が積極的に参加する事が自分を変える第一歩であると感じています。

今年度の前半には、まほらっこ三春教室を見学して、授業が終わってからの時間を毎日数名のボランティアの方々に世話になり楽しんで遊んでいる子供達の姿でした。私は今でも思わずほっとした気持ちと心の中が熱くなった事を覚えています。

後半には、第二保育所に併設されている子育て支援センターを見学して、そのすばらしさに心をうたれました。育児相談を始めお母さんやおばあちゃん方々の交流もでき、とても意義のある事だと感じました。子供達も楽しく遊んで満足している様子でした。そして最後に保育士さんの笑顔が



とても印象的でした。(感謝！)

環境部会

環境調査の取組みをして

部会長 渡辺 博行

「空き家調査」では、町内に空き家が数多くありました。特に、北町、新町、荒町には古くなった空き家が目立ちましたが、環境に問題はないようです。空き家のあるところは、どうしても暗いのでご注意ください。また、火災や子供の事故のないよう消防や町でも用心されておりますが、地域住民の方々にも見守っていただきたいです。



「地球温暖化防止法」など地域環境に関する事で、ゴミの分け方・出し方にも一度見直す必要があると部会でも問題にしました。七月九日に出前懇談会が開催されました。清掃センターの方々から町のゴミ現

状や分け方・出し方の説明がありました。ものを九月の三春わが街広報紙にわかりやすくまとめられて明らかになりました。

福祉部会

元気で健やかに暮らせる

まちづくり活動！

部会長 田部 敬子

福祉部会では、三春町の第六次長期計画に連動して『町民の誰もが、元気で健やかに暮らせるまちづくり』を目指して活動を展開しました。福島医大、地域・家庭医療部教授、町立三春病院勤務の葛西龍樹先生の指導・助言をいただきながら「かつさい教授と健康づくり」と題して勉強会を三回開催しました。なんと、その健康は、人に作っ



てもらうのではなく、あなた自身が気づき健康づくりを実践する、あなたが主役の健康づくりである事をふまえ、同じ気がかりを持つ人達でグループを作り、各自が①気づく②気づいた事を改善するためにどうしたらよいか計画を立て③立てた計画に沿って実行④やってみたことを反省⑤新たな気づき、というサイクルで行われました。一人では続けられない事も仲間がいれば色々な知恵も得られ、仲間作りを兼ねた健康づくりに発展できたと思います。次年度も継続します。

地域部会

地域の価値を見つける活動を

進めてきた。

部会長 田母野公彦

また、他の地域ではどのような健康づくりに取り組むか、地域に浸透させる事が出来たのか視察研修をさせていただき、その発展として、三月二六日喜多方から太極拳の講師を招くことが出来ました。介護にたずさわる方々にも多く参加いただき、その活動の中に取り入れていただければ幸いです。

人の住むところに価値のないところはない。「まちづくり」の実践は地域の価値を見つけ、正しく評価するところから始まる。この方針に従って、部会ではここ五・六年、風土的価値・歴史的价值・人の営み価値という三つの方面から地

域の価値を見つける活動を進めてきた。六月には早朝、草刈りをしながら月斎館、十月には中世の遺跡巡りを兼ねて桜谷と美しい空間・両散策路踏査を実施。案内標識設置については、朽ちて倒れている桜谷の出口に決定。予算不足は部員の労力奉仕とし、役場の許可も得た。

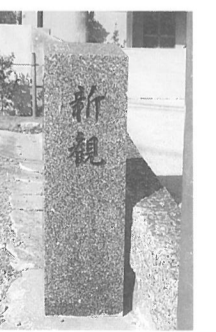
街並部会

平成二十年年度の取組み

部会長 佐久間保一

街並部会二十年年度の活動は、「石柱の設置」と「石柱・拓本ラリー」。「お城山にアジサイを植える」でしたが、予定通りに行えたと考えます。しかし「石柱・拓本ラリー」に関しては、三春小学校の行事と重なり、本事業の大きな目的である「語り継ぐ」という意味合いで、小学生の参加を得られなかったのが大きな反省です。来年度は、学校行事を考慮に入れたスケジュールを組みたいと思います。

「石柱の設置」は、荒町の新観音、新観と呼ばれているところと、北向町、日



向町に建てました。新観は呼称で、北向町と日向町は字名で、どちらも由来を学習し、部会としては大きな知識の蓄積になったと思います。この事業は、呼称や字名の由来の探索と、石柱の題字の作成で町の方々に大変お世話になっております。有り難うございます。来年もよろしくお願ひします。



「お城山にアジサイを植える」この事業は部会のメンバーから提案があったのですが、図らずも城山公園整備計画事業のほうでも同様の計画があり、取りあえずはそちらの計画に参加するという事になりました。本年度は個人的に大変多忙で、部会の皆様にご迷惑を掛けました。一年間お疲れ様でした。

第13回定期出前懇談会
とき・4月8日(水)
午後7時から
ところ・三春交流館
2F会議室C・D
テーマ・「平成21年度三春町予算と主要事業について」

編集後記

三月十四日、冷たい雨の中で紫陽花・桜・もみじの植樹が城山公園にて各まちづくり協会の皆さんによって行われました。ほんとうにご苦労さまでした。一月には間伐・枝落としなどの修景が行われ、春の準備がよいよ整ったようです。

三月十一日に行われた第十二回出前懇談会はとても盛会でした。三春の散策路についての関心の深さは特筆すべきことでした。今までは町民同士で、このことについての意見の交換や実験にもとづく話し合いが無かったように思います。

こよなく三春の町を愛する人達がこんなに沢山いたのだと嬉しくなりました。お城山のことも、町内七ヶ所に分布する散策路のことも、もっともっと地質学的に植物学的に景観的に総合的に専門的な知識が必要となるに求めていると思ひました。あと二十年たつたら三人に一人は六十五才の時代お城山へ散策路へと道中が広がるほど人が出て健康寿命を旨げすべく標高四〇八メートルの城山(大志田山)へ年に何回でも登れる体力づくりをしましょう。

元気な四〇代が元気な六〇代、元気な六〇代が元気な八〇代となるらしいです。(村田)

コミュニティだより
「三春わが街」第五十二号
発行日 平成二十一年三月三十一日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広報部 会
三春町字大町一七八
(六二) 三九八